

※誤字・脱字がありましたらご容赦ください。

H25.9.13 文責：橋本



大切な「自己有用感」

学校だより【ふるさとの森】：第10号

自分に自信を持って生き生きと生活できるようにする



イトコメガネは

みんなの心の中にあるよ♪



夏休み明け集会の折、「友だちのいいところを見つけよう」という話をしました。早速、教室に掲示して実践をしてくれているクラスもあります。誰もが持っている「イトコメガネ」を使って居心地のよい学級・学校にしたいです。上松っ子宣言「友だちと助けあいます」の実践です。

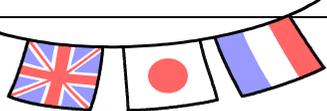
news!



東京オリンピック開催決定

9/8の早朝、2020年のオリンピック開催地が東京に決定しました。

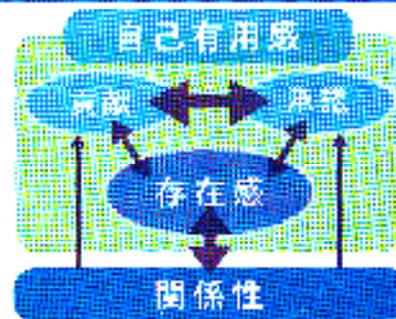
ちょうど小学校の低学年だったのでテレビ見たかすかな印象があります。あと7年、平均寿命を全うすれば見られるチャンスがあります。目標・夢・希望を子どもに与えてくれるものと思っています。



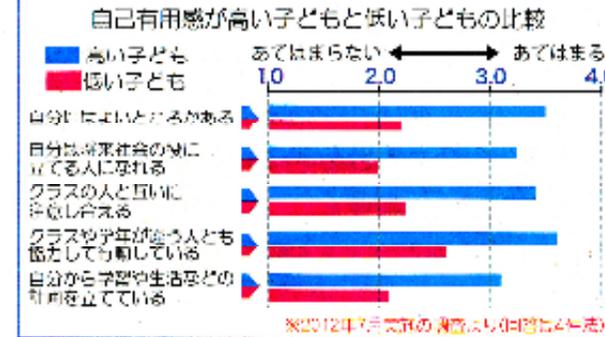
明日は運動会！！皆さんのお越しをお待ちしています(´o´)

傾聴や賞賛で向上

※自己有用感を構成する三つの要素と「関係性」



「自己有用感」と「望ましい意識・行動」の関係



過日、栃木県総合教育センターの調査・研究で「自己有用感」の大切が指摘されました。自己有用感というのは『他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値ある存在として受け止める感覚』をいいます。私はこの感覚は本校児童のみならず、すべての子どもたちに今もつとも必要なものであると思います。この感覚の醸成にはさまざまな要因があると調査分析では述べられていますが、「存在感」「承認」「貢献」の3つが中心的なものであることがわかりました。

- ★**存在感**…他者や集団の中で、自分は価値ある存在であることの実感
- ★**貢献**…他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況
- ★**承認**…他者や集団から、自分の行動や存在認められている状況



「存在感」が他者や集団に「貢献」したいという意欲につながり、「貢献」できたりすることで満足感を得たり、「承認」されたりすることになる。このようの3者が関連し合って高まっていくと考えられます。自己有用感の高い児童は「自分に自信がある」「思いやりのある行動ができる」「友だちと協力できる」「学習意欲が高い」「自立的・自主的な学習ができる」という傾向が見られました。これを高める効果として「ほめる」「話しかける」「話を聞く」といった周囲の大人の「賞賛」や「傾聴」が重要になります。

ご家庭でも重要なこと



この関わりは学校だけではありません。特に、家庭でも子どもの学習に関心を持ち話題にしたり、子どもと将来の話をしたりすることも「傾聴」や「賞賛」につながり、自己有用感の要素である「承認」に働きかけて、自己有用感を高めると考えられます。ぜひご理解・ご協力をお願いします。